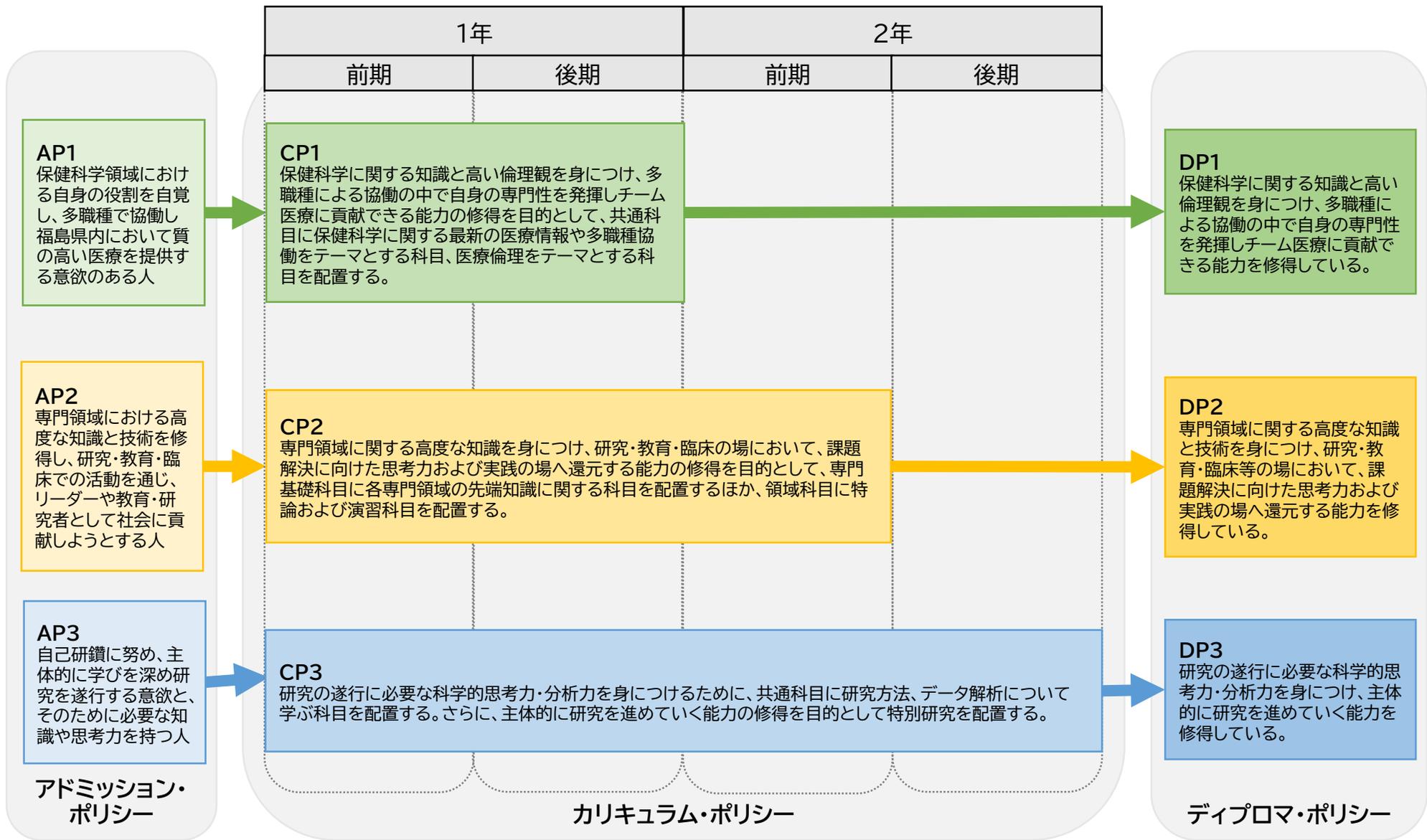


審査意見への対応を記載した書類 別添資料 目次

【資料1】設置の趣旨等を記載した書類「3ポリシーおよび履修スケジュール」(新・旧) ……	2
【資料2】シラバス「先端医療と多職種連携」(新) ……	4
【資料3】設置の趣旨等を記載した書類「カリキュラム・ポリシー相関図」(新・旧) ……	7
【資料4】シラバス「保健科学教育論Ⅰ」(新) ……	9
【資料5】シラバス「保健科学教育論Ⅱ」(新) ……	12

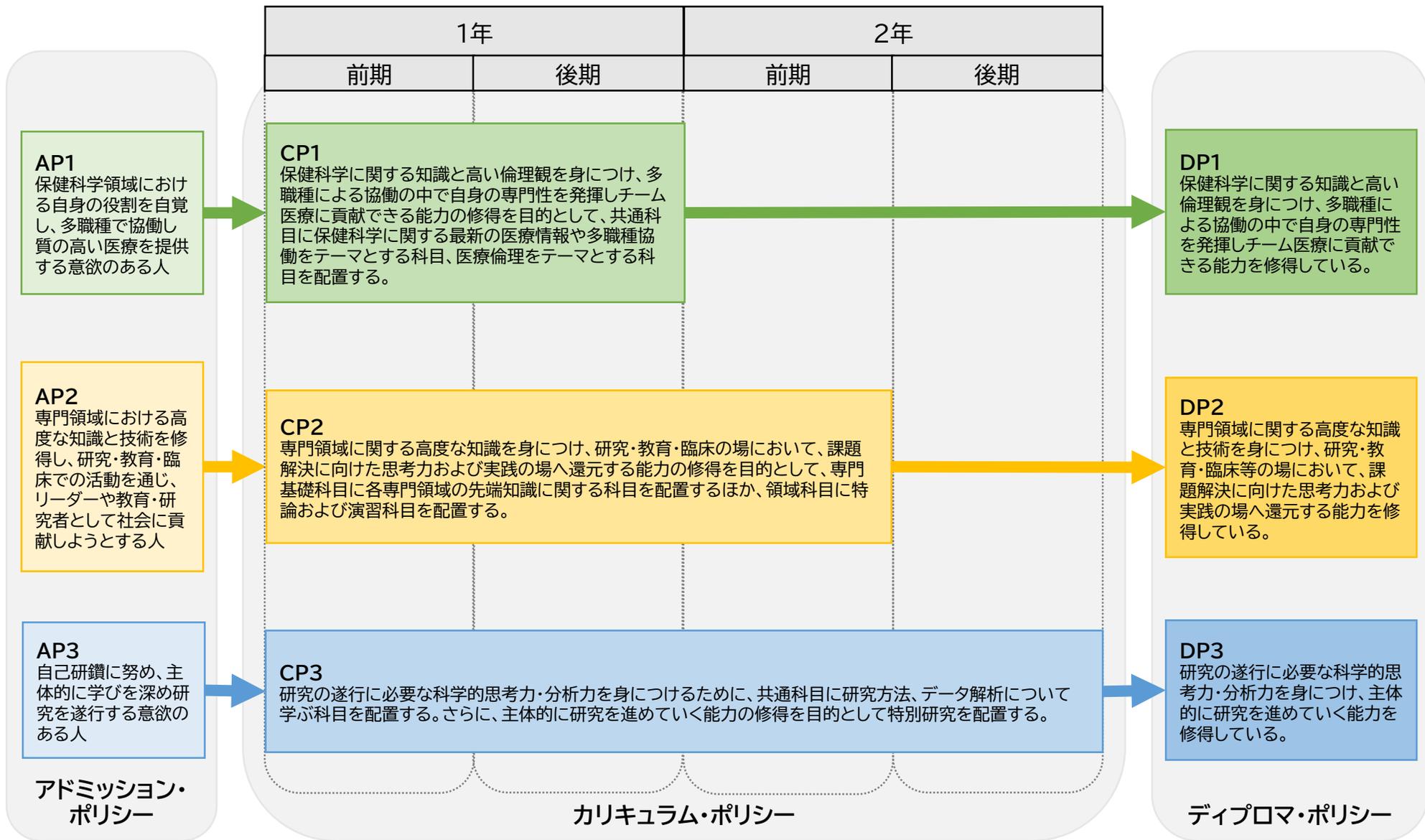
3 ポリシーおよび履修スケジュール

資料1(新)



3 ポリシーおよび履修スケジュール

資料1(旧)



科目名 : 先端医療と多職種連携
英語名称 : Advanced Medicine and Interdisciplinary Collaboration in Health Sciences
科目責任者 : 三輪建太
開講年次 : 1年 後期 2単位
授業形態 : 講義
必修・選択 : 必修

概要（目的・内容）

本科目では、リハビリテーション、診療放射線科学、臨床検査、看護学等の保健医療分野に関わる専門家が、研究の視点から先端医療の進展にどのように関与し、それを推進していくかを学ぶ。科学的探求と臨床研究を通じて、これらの領域での新しい技術や治療法の開発と評価に焦点を当てる。専門家がどのように独自の研究を通じて知識を深め、多職種のチームでの協力を通じて革新的なアプローチを推進し、患者の治療結果と医療の質を向上させるかを探求する。

到達目標

本科目を通じて、先端医療の進展に不可欠な研究手法を理解し、革新を目指す研究計画の作成方法を学ぶとともに、多職種研究チーム内での効果的なコミュニケーションと協働を促進するスキルを習得する。さらに、国際的な視点を持つことの重要性を認識し、異文化間での協力を促す能力を養い、専門職種での最良の協働方法を探求することが目標である。

「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標と授業科目の目標の関係

本科目は、ディプロマ・ポリシーの1を達成する科目に該当する。

テキスト

なし

参考書等

なし

成績評価方法

レポート

実務経験のある教員が行う授業科目

該当する

事前・事後学修の内容

事後学修として、講義内での情報および議論をまとめておく。

その他メッセージ等

授業スケジュール/担当教員等：90分1コマ

	授業実施日	時限	場所	担当教員	授業内容
1			福島駅前 キャンパス	三輪建太（保健 科学研究科）	先端医療と多職種連携の オリエンテーション、 核医学領域の最新動向
2			同上	久保均（保健科 学研究科）	画像診断の最新動向
3			同上	加藤貴弘（保健 科学研究科）	放射線治療の最新動向
4			同上	須賀淳子（京都 大学医学部附属 病院）	ゲノム医療の最新動向
5			同上	藤野高志（いち かわクリニック）	生殖医療の最新動向
6			同上	川勝忍（会津医 療センター）	認知症研究の最新動向
7			同上	川崎伊織（作業 療法学科）	作業療法における ICT の 活用
8			同上	浅尾章彦（作業 療法学科）	生体工学と作業療法
9			同上	阿部浩明（保健 科学研究科）	脳卒中患者のリハビリテ ーションにおける多職種 アプローチ
10			同上	中野渡達哉（理 学療法学科）	運動器疾患患者のリハビ リテーションにおける多 職種アプローチ

11			同上	山品博子（診療放射線科学科）	学際・国際共同研究の設計
12			同上	同上	Global Health における産官学民連携
13			同上	野々垣晶代（国連人口基金）	事例に学ぶ Global Health 課題に対する学際研究
14			同上	関亦明子（看護学部）	看護研究の最新動向と多職種連携
15			同上	矢吹省司（保健科学研究科）	福島県の医療環境及び臨床現場と臨床研究における多職種連携

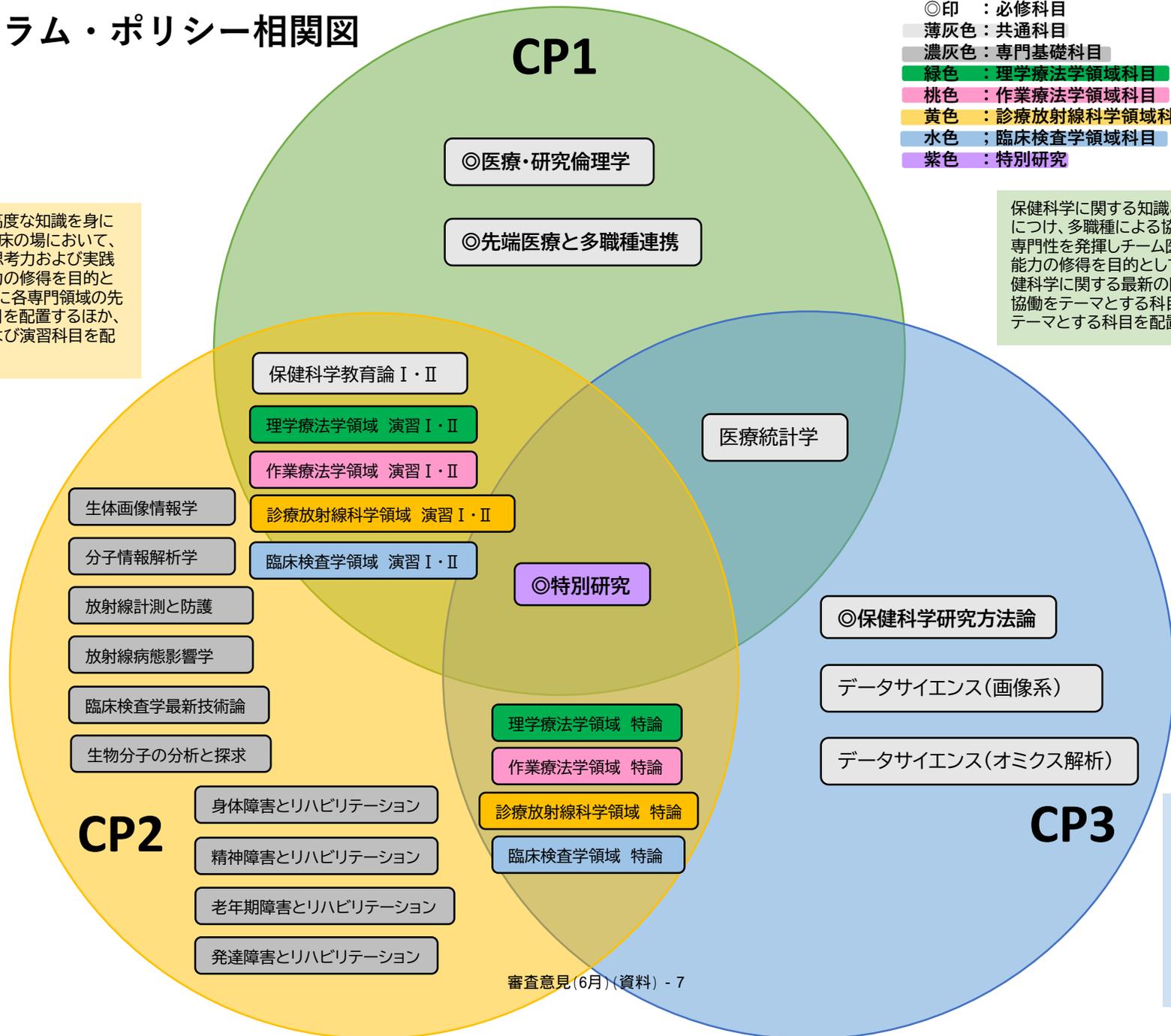
カリキュラム・ポリシー相関図

資料3
(新)

- ◎印 : 必修科目
- 薄灰色 : 共通科目
- 濃灰色 : 専門基礎科目
- 緑色 : 理学療法学領域科目
- 桃色 : 作業療法学領域科目
- 黄色 : 診療放射線科学領域科目
- 水色 : 臨床検査学領域科目
- 紫色 : 特別研究

専門領域に関する高度な知識を身につけ、研究・教育・臨床の場において、課題解決に向けた思考力および実践の場へ還元する能力の修得を目的として、専門基礎科目に各専門領域の先端知識に関する科目を配置するほか、領域科目に特論および演習科目を配置する。

保健科学に関する知識と高い倫理観を身につけ、多職種による協働の中で自身の専門性を発揮しチーム医療に貢献できる能力の修得を目的として、共通科目に保健科学に関する最新の医療情報や多職種協働をテーマとする科目、医療倫理をテーマとする科目を配置する。



研究の遂行に必要な科学的思考力・分析力を身につけるために、共通科目に研究方法、データ解析について学ぶ科目を配置する。さらに、主体的に研究を進めていく能力の修得を目的として特別研究を配置する。

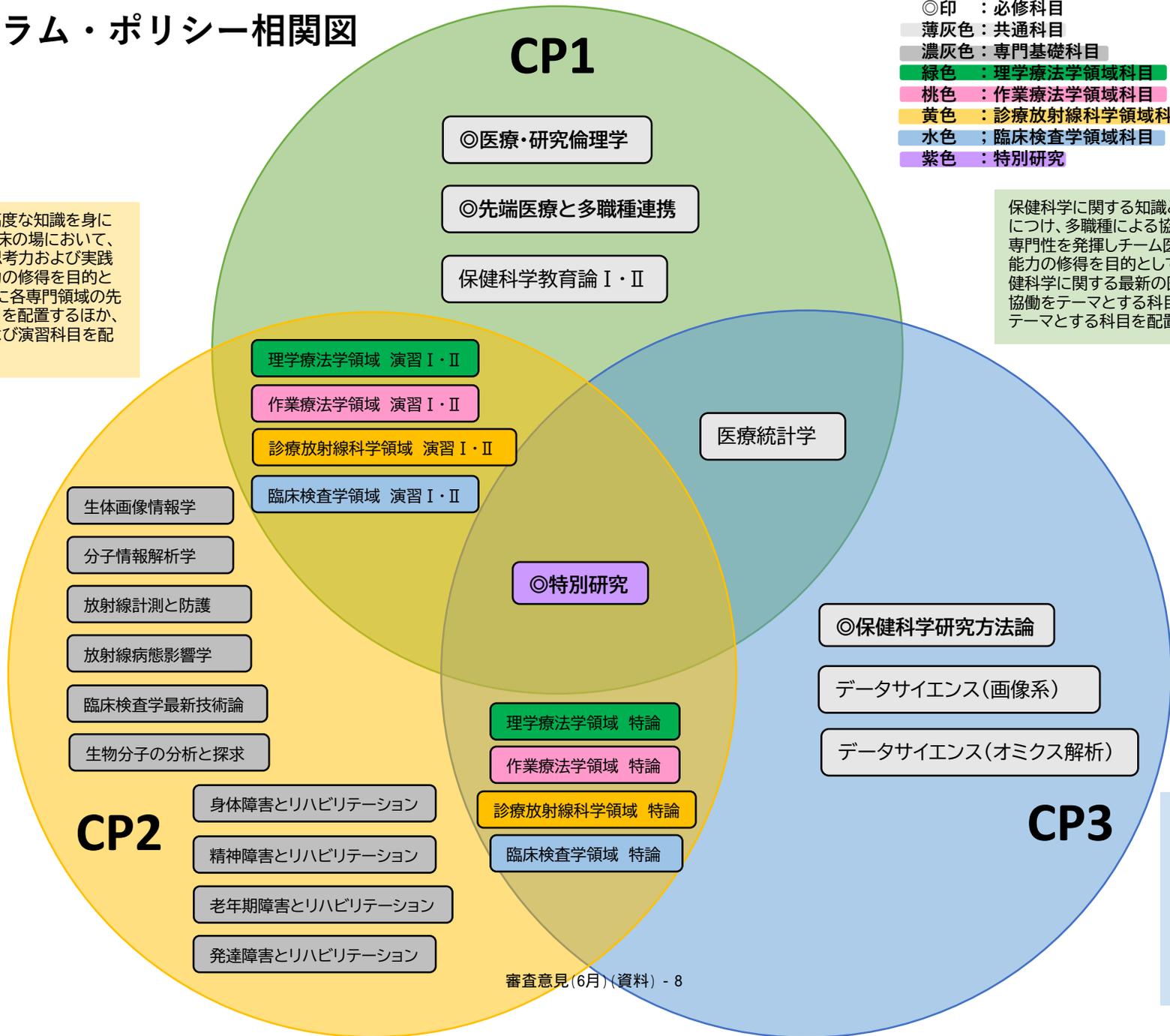
カリキュラム・ポリシー相関図

資料3
(旧)

- ◎印 : 必修科目
- 薄灰色 : 共通科目
- 濃灰色 : 専門基礎科目
- 緑色 : 理学療法学領域科目
- 桃色 : 作業療法学領域科目
- 黄色 : 診療放射線科学領域科目
- 水色 : 臨床検査学領域科目
- 紫色 : 特別研究

専門領域に関する高度な知識を身につけ、研究・教育・臨床の場において、課題解決に向けた思考力および実践の場へ還元する能力の修得を目的として、専門基礎科目に各専門領域の先端知識に関する科目を配置するほか、領域科目に特論および演習科目を配置する。

保健科学に関する知識と高い倫理観を身につけ、多職種による協働の中で自身の専門性を発揮しチーム医療に貢献できる能力の修得を目的として、共通科目に保健科学に関する最新の医療情報や多職種協働をテーマとする科目、医療倫理をテーマとする科目を配置する。



研究の遂行に必要な科学的思考力・分析力を身につけるために、共通科目に研究方法、データ解析について学ぶ科目を配置する。さらに、主体的に研究を進めていく能力の修得を目的として特別研究を配置する。

科目名 : 保健科学教育論 I
英語名称 : Health Science Education Theory I
科目責任者 : 森下慎一郎 (植田啓嗣)
開講年次 : 1年 前期 2単位
授業形態 : 講義
必修・選択 : 選択

概要 (目的・内容)

本科目は、教育学を学んでいない理学療法士・作業療法士等が将来教育を担う立場になるにあたって、教育者としての資質・能力を高めることを目的としている。本科目は「医療従事者に関わる教育理論と実践」というテーマのもと、教育学・教育心理学・教育方法学の基礎理論について学修を深めるものである。また、授業の総括として、基礎理論で学んだことを応用して、教育活動の模擬実践の計画・実行・評価を行う。この教育活動の模擬実践は、受講者が教育者・講師の立場となり、医療従事者を目指す学生に対して、専門的な内容で授業することを想定している。本科目は講義形式で行われるものの、毎回授業者および受講者同士のディスカッションを通して学修を深めていく。

到達目標

- 1) 教育学・教育心理学・教育方法学の基礎理論について説明することができる。
- 2) 教育の基礎理論に関する知識を身につけ、思考し、教育や支援の実践に活かすことができる。
- 3) レポート作成を通して、研究の遂行に必要な科学的思考・分析力を身につけ、主体的に研究を進めることができる。
- 4) テーマに沿って授業計画を考え、授業を実施し、自他の授業を評価することができる。

「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標と授業科目の目標の関係

本科目は、ディプロマ・ポリシーの 1 及び 2 を達成する科目に該当する。教育の意義や教育学に関する基礎理論を学ぶほか、教育に関する知識等を応用し、教育活動を実践する能力の修得に繋がる。

テキスト

- ・特になし。授業のレジユメを事前に配布する。

参考書等

- ・木村元編 (2021) 『系統看護学講座 基礎分野 教育学』医学書院。
- ・丸山仁司・堀本ゆかり編著 (2021) 『リハビリテーション専門職のための教育学：現場で

役立つ「教える技術」』医歯薬出版。

成績評価方法

- ・教育活動の模擬実践：30%
- ・毎回の課題：30%
- ・期末レポート：40%

実務経験のある教員が行う授業科目

- ・該当しない。

事前・事後学修の内容

- ・事前学習：事前配布の資料を読んでもくる。模擬実践の準備をする。
- ・事後学習：毎回、授業に関連するミニレポートを作成する。

その他メッセージ等

- ・特記事項なし。

授業スケジュール/担当教員等：90分1コマ

	授業実施日	時限	場所	担当教員	授業内容
1			福島駅前 キャンパス	植田啓嗣(福島大 学)	ガイダンス(教育の意義と 目的)
2			同上	同上	学習理論
3			同上	同上	動機づけ
4			同上	同上	教育評価
5			同上	同上	教授－院内学級の実践
6			同上	同上	訓育－構成的グループエ ンカウターの実践
7			同上	同上	家庭と学校
8			同上	同上	ジェンダーと教育
9			同上	同上	特別支援教育
10			同上	同上	成人教育理論と生涯学習
11			同上	同上	教育活動の作り方
12			同上	同上	効果的な教育活動の設計
13			同上	同上	教育活動の模擬実践の準 備(授業テーマの設定、テ ーマに対する調査・授業準

					備)
14			同上	同上	教育活動の模擬実践（前半）（学生による授業形式での発表、講評・議論）
15			同上	同上	教育活動の模擬実践（後半）（学生による授業形式での発表、講評・議論）

科目名 : 保健科学教育論Ⅱ
英語名称 : Health Science Education Theory Ⅱ
科目責任者 : 森下慎一郎 (植田啓嗣)
開講年次 : 1年 後期 2単位
授業形態 : 講義
必修・選択 : 選択

概要 (目的・内容)

本科目は、教育学を学んでいない理学療法士・作業療法士等が将来教育を担う立場になるにあたって、教育者としての資質・能力を高めることを目的としている。具体的に、本科目は「人間の発達と教育・支援」というテーマのもと、人間の発達に対する理解を深めるとともに、胎児期から老年期に至るまでの人間の発達に即した教育や支援の在り方について考察を深めることを目的としている。本科目は、受講生による発表（反転授業形式）を中心に進めていくが、毎回授業者および受講者同士のディスカッションを通して学修を深めていく。反転授業形式で受講者が教育者・講師の立場となり、授業計画・実践をすることによって、大学等の教員を目指すうえで求められる授業力・教育力向上を目指していく。

到達目標

- 1) 人間の発達理論や各発達段階の特徴について説明することができる。
- 2) 人間の発達に関する高度な知識を身につけ、思考し、教育や支援の実践に活かすことができる。
- 3) レポート作成を通して、研究の遂行に必要な科学的思考・分析力を身につけ、主体的に研究を進めることができる。
- 4) テーマに沿って授業計画を考え、授業を実施し、自他の授業を評価することができる。

「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標と授業科目の目標の関係

本科目は、ディプロマ・ポリシーの1及び2を達成する科目に該当する。人間の発達とその教育的支援に関する知識を身につけるとともに、教育の場において知識を応用し実践する能力の修得に繋がる。

テキスト

・浅野大喜編 (2021) 『Crosslink Basic リハビリテーションテキスト 人間発達学』メジカルビュー。

参考書等

・辛島千恵子編著 (2019) 『メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ 人間発達とライフ

サイクル』理工図書。

成績評価方法

- ・授業内での発表：30%
- ・毎回の課題：30%
- ・期末レポート：40%

実務経験のある教員が行う授業科目

- ・該当しない。

事前・事後学修の内容

- ・事前学習：事前配布の資料や教科書の該当部分を読んてくる。発表担当に当たっている場合、発表資料・レジュメを作成する。
- ・事後学習：毎回、授業に関連するミニレポートを作成する。

その他メッセージ等

- ・特記事項なし。

授業スケジュール/担当教員等：90分1コマ

	授業実施日	時限	場所	担当教員	授業内容
1			福島駅前 キャンパス	植田啓嗣(福島大 学)	ガイダンス(人間発達学の 基礎)
2			同上	同上	胎児期の発達(反転授業形 式)
3			同上	同上	運動の発達(反転授業形 式)
4			同上	同上	認知能力の発達(反転授業 形式)
5			同上	同上	社会性の発達(反転授業形 式)
6			同上	同上	情動・愛着の発達(反転授 業形式)
7			同上	同上	言語の発達(反転授業形 式)
8			同上	同上	摂食嚥下の発達(反転授業 形式)

9			同上	同上	遊び・生活能力の発達（反転授業形式）
10			同上	同上	道徳性の発達（反転授業形式）
11			同上	同上	家族関係の発達（反転授業形式）
12			同上	同上	発達の評価（反転授業形式）
13			同上	同上	発達の統合的理解（反転授業形式）
14			同上	同上	環境・発達と理学・作業療法（反転授業形式）
15			同上	同上	総括（人間の発達への支援）